日本リハビリテーション栄養学会

Japanese Association of Rehabilitation Nutrition

NewsLetter

Vol.37

2025年3月

-15th 日本リハ栄養学会学術集会 in 金沢への意気込み-

恵寿総合病院 臨床栄養課　小蔵　要司

2026年のホワイトデイは金沢で！

この度、第15回日本リハ栄養学会学術集会を2026年3月14日（土）、石川県の金沢市文化ホールで開催させて頂きます。本学術集会のテーマは**「リハビリテーション栄養で支えるレジリエンス　－リハ栄養の真の実践を目指して－」**としました。レジリエンスには、「回復力」「復元力」「弾力」といった意味があります。

我が国は、高齢化の影響で要介護高齢者数が年々増加しており、栄養ケアやリハを必要とする方が増加しております。また我々は、数年前には新型コロナウイルスパンデミックを経験しました。さらに北陸地方は、令和 6 年1月1日に発生した能登半島地震で甚大な被害を受け、未だ復旧すらままならぬ地域があります。特に能登地域は地震から9ヶ月後に豪雨水害にも見舞われ、仮設住宅が浸水するなど多重被災に苦しめられております。このような疾患、障がい、災害による困難から、リハ栄養の実践を通してしなやかに回復する術について有意義なディスカッションができればと考えております。

本学術集会は対面での開催を中心に準備を進めております。オンデマンドはオンデマンド限定の教育講演のみでメインプログラムは現地でしか見ることが出来ません。このような形態をとりましたのは、現地で顔を合わせての討論を重視したいこと、そして災害支援の一環として皆様に金沢や能登に足を運んで頂きたいという思いからです。多職種、多領域の方々が出会い、議論し、明日のリハ栄養について語り合う、そんな学術集会にしたいと考えております。ご理解の程よろしくお願い申し上げます。学術集会のホームページは既に開設されており主要プログラムの一部も公開されております。以下の二次元バーコードからぜひご覧下さい。

3月の金沢は、冬の北陸の風情とおいしい食べ物、そして春の息吹も感じられる良い時期です。

「2026年のホワイトデイは金沢で！」を合言葉として、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

学術集会 HP

第14回日本リハビリテーション栄養学会学術集会を終えて

聖マリアンナ医科大学循環器内科　鈴木規雄

2025年1月25日(土)に開催された第14回日本リハビリテーション栄養学会学術集会（川崎市コンベンションホール）は、お蔭様をもちまして現地開催とオンデマンド配信を盛会裏に終了いたしました。

今回の学術集会は**「常識を超えるリハビリテーション栄養」**をテーマに開催しました。近年では様々な分野における急速な技術革新、予期せぬ感染症流行や自然災害の発生など、社会環境はめまぐるしく変化しています。これまでの「当たり前」や「常識」では解決できない変化に直面しながら進まなくてはならず、リハ栄養の分野においても同様です。既存の常識にとらわれず、時代の変化に合わせて柔軟に対応することを目指して様々なセッションを企画しました。シンポジウムを含む16の企画セッションに加えて、一般演題には55演題の応募をいただきました。最終的に699名の参加登録をいただき、各会場・各セッションでは活発な議論が交わされました。参加者の皆さまにも新たな視点から多くの気づきや学びを得ていただけたのではないでしょうか。

次回の第15回学術集会大会長の小蔵要司先生には、令和6年能登半島地震で大変な状況にもかかわらず、準備段階から多くのご協力をいただきました。「災害時のリハビリテーション栄養」のセッションでは、当時の大変な状況のご報告とあわせて、復興が現在進行形である強いメッセージをいただきました。突如として苦境に立たされ、これまでの常識では通用しないときにどうするか、今回の大会テーマを体現されているように感じました。**小蔵大会長の思いが込められた第15回学術集会で、改めて皆様にお目にかかれることを楽しみにしております。**

最後に、大会の準備や運営にご協力を賜りました学会理事・監事の先生方、参加者の皆様、ランチョンセミナー　、広告等に協賛を頂きました企業の皆様に厚く御礼を申し上げます　。

リハ栄養学会X広報担当募集！！

X広報担当：宇野勲、大沢 優也、高尾 優一、丸山元暉、村田 裕康

リハ栄養の現場で「**もっと仲間が欲しい**」と感じていませんか？ もしかしたら、私と同じように、周囲にリハ栄養を語り合える仲間がいないと悩んでいる方がいるかもしれません。

私は「**仲間が欲しい**」「**人脈を広げたい**」「**学びを深めたい**」という想いから、このXアカウントの「中の人」になりました。

Xでは、リハ栄養の基本論文をスライドにまとめたり、フォーラムやイベント情報を広報したり、アンケートを実施したりと、無理のない範囲で定期的に発信しています。

これらの活動を通して全国のリハ栄養の仲間や理事の方々とのつながりができ、最新情報をいち早くキャッチできるだけでなく、発信力も高めることができました。

リハ栄養を学び、発展に貢献したい、全国の仲間と繋がって刺激し合いたい、そしてスキルアップを目指したいなら、ぜひ「中の人」として一緒に活動しませんか？

きっと、**想像以上の出会いと成長が待っています**。あなたのご応募を心よりお待ちしています！

応募はこちらのQRコードから

TNT-Rehabilitationの参加者の声

TNT-Rehabilitationの参加報告1

社会医療法人敬和会　大分岡病院　リハビリテーション部　早崎　温貴

2025年1月26日、第14回日本リハビリテーション栄養学会学術大会の翌日に、東京・アボットジャパンにてTNT-Rehabilitationが開催されました。今回、私は初めての参加となり、期待とともに緊張した気持ちで会場に向かいました。

本研修会は、リハビリテーション栄養ケアプロセスを学ぶための講義、ワークショップ、ケーススタディの3部構成で行われました。特にワークショップでは、多職種の方々と協働しながら患者のリハ栄養ケアを検討する機会があり、現場さながらの実践的な学びを得ることができました。

ケーススタディでは、リハ栄養ケアプロセスを用いて患者の状態を評価し、具体的な介入策を検討しました。他職種と意見を交わしながら進めることで、個々の視点の違いや、チーム医療の重要性を改めて実感しました。実際に施設でこのプロセスを導入できれば、患者の転帰向上に大きく寄与することが期待されます。

本研修を通じて、リハ栄養の知識を深めるだけでなく、多職種連携の意義を再確認する貴重な経験となりました。今後、臨床の現場で学んだ内容を活かし、より効果的なリハビリテーション栄養の実践に取り組んでいきたいと思います。

TNT-Rehabilitationの参加報告2

医療法人社団協栄会大久保病院　管理栄養士　大濱　良映

この度、リハ栄養学会とセットでTNT-Rehabilitation研修会に参加しました。

今回の研修では、リハ栄養ケアプロセスについて深く学ぶことができました。

午前中は、講義を通して基礎や方法を学び、午後の多職種とのグループディスカッションでは管理栄養士の視点だけでは見いだすことのできなかった様々な提案が挙がり、大変有意義な時間となりました。研修会に参加した時には時間が足りないように感じましたが、現場では短時間で数々の症例検討を行うため、実践力を身につけるための訓練であったことに気づかされました。

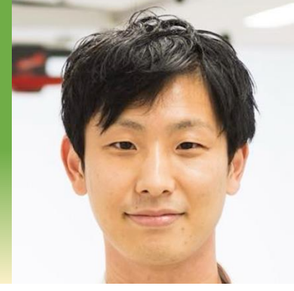
前日に参加したリハ栄養学会の中で、大会長より「冷暖自知」のお話がありましたが、何事も実践してみなければわからないことを改めて実感することができました。

これらの学びを業務でも活かし実践力を磨いていきたいです。

TNT-Rehabilitationは臨床現場のリハビリテーション栄養管理を包括的に学ぶことができます。
また、リハ栄養指導士の取得条件です。是非、皆様のご参加をお待ちしています！

-リハ栄養実践報告-

杏林大学医学部付属病院　リハビリテーション室　村田　裕康



現在、私はリハ栄養に関連する2つの院外活動を行っています。1つ目は「**東京リハ栄養ネットワーク研究会**」、2つ目は「**リハ栄養オンラインコミュニティ：RNC（Rehabilitation Nutrition Online Community）**」です。

「東京リハ栄養ネットワーク研究会」は、年2回、東京在住・在勤の方々を対象に開催しており、症例検討会・研究紹介・特別講演の3部構成で行っています。研究会終了後には懇親会も実施し、参加者同士が直接交流することで、顔の見える関係のもとリハ栄養に関する知見を深めています。

一方、「リハ栄養オンラインコミュニティ：RNC」は、オンライン上で全国各地のリハ栄養に関心を持つメンバーと交流する場です。ここには、リハ栄養の初学者から上級者まで、さまざまな職種の方々が参加しています。日々のやりとりでは、「各職種にどのように声をかければよいか」「臨床栄養に関する疑問点」「リハビリの内容」など、多様なテーマについて活発な議論が交わされています。

リハ栄養を実践したいものの、職場に仲間がいないといった方にとって、こうした院外の活動に参加することは、知識を深める良い機会になるのではないでしょうか。

-書籍紹介-

JA愛知厚生連　足助病院 栄養管理室　川瀬文哉

「マカン・マラン - 二十三時の夜食カフェ　（古内 一絵 著）」

『マカン・マラン』は、ドラァグクイーンのシャールが店主を務める深夜営業の夜食カフェ。ここにはさまざまな悩みを抱えたお客さんたちが訪れ、美味しい料理とシャールの豊かな人間性に癒やされていきます。社会の中で悩み、何が正解かわからない中でも自分と向き合いながら進んでいこうとするお客さん一人ひとりに寄り添い、個別化されたメニューを提供するシャールの姿には、「こころのリハ栄養」に通ずるものを感じます。

シャールの言葉には共感があふれ、シャール自身の豊かな人間性や心の強さが伝わってきますが、その言葉に押しつけがましさは感じられません。また、シャールの作る料理はどれもとても美味しそうで魅力的であり、さまざまな工夫について栄養学的な視点から読み進めるのも一興かもしれません（笑）。

リハビリテーション栄養学会の書籍紹介としてこのような物語を取り上げるのは異例かもしれませんが、日々忙しく患者さんのためにリハ栄養の実践や研究に奔走されている先生方にこそ手に取っていただき、思いきり泣いていただきたい一冊として、心からおすすめいたします。

-論文紹介-

三重大学大学院 医学系研究科
リハビリテーション医学分野　　遠山 桃子

Kokura Y. Impact of the 2024 Noto Peninsula Earthquake on Nutritional Status in Residents of an Integrated Medical and Long-Term Care Facility: A Descriptive Study. Nutrients. 2025 Jan 30;17(3):506. doi: 10.3390/nu17030506. PMID: 39940364; PMCID: PMC11820174.

個人・世帯レベルでの災害への備えの重要性は広く認識されていますが、医療・介護施設における備えも同様に重要です。そこで、地震発生後の療養型医療施設入所者の栄養状態の変化を検討した論文を紹介します。
この論文では、震災時に介護医療院に入所していた入居者を対象に、震災後3か月間の体重および骨格筋量の変化を分析しました。その結果、震災前と比較して各時点で有意な体重減少が認められました。また、嚥下障害の重症度別の比較では、正常嚥下群での体重減少が最も顕著であり、軽度嚥下障害群の63%、正常嚥下群の62%で骨格筋量が低下していました。
震災後3か月間の医療資源の変化として、スタッフの確保状況、インフラの復旧、栄養充足率の推移が報告されており、実施された入居者への栄養的アプローチも報告されています。
これらの結果を踏まえ、水の供給遅延や人員、物資不足が栄養管理や入所者の栄養状態に与えた影響やその対策として必要とされる備蓄について言及しています。災害時における医療・介護施設の栄養管理体制の構築に向けた実用的なガイドライン策定の必要性を示す重要な知見を提供しています。

-今月のリハ栄養数珠つなぎ-

富山県リハビリテーション病院・
こども支援センター　　亀谷　浩史

毎号一人、①リハ栄養について、②前者からの質問（お題は自由）について語って頂きます。

①リハ栄養との出会い

リハ栄養との出会いのきっかけは2010年に当時の同僚が持ってきた「PT・OT・STのためのリハビリテーション栄養」という書籍でした。言語聴覚士として嚥下治療に力を入れていましたが、やれるだけの嚥下治療を行っても良くならない患者さんが一定数いました。悩んでいたときに出会ったこの書籍は、私たちに足りないものを埋めるには十分すぎるものでした。リハと栄養を意識するようになってからは改善する患者さんも増え、リハだけでなく栄養も必須と声を大にして言えるようになりました。書籍を紹介してくれた当時の同僚に感謝しなくてはいけませんね。

②現在の取り組み

現在は一般病棟、回復期リハ病棟を中心に臨床に従事しています。院内ではNSTチェアマンの医師と共に攻めのリハ栄養を実践し、学会や研究会で発表を行っています。また、院内外でリハ栄養の啓発を行っています。まずは現場からできることを発信し、一人でも多くの医療介護従事者にリハ栄養の考え方、魅力を伝えてきたいと思います。

編集後記

News Letter Vol.37を発行いたしました。
ご多忙のところ、各項をご担当頂きました先生方のご協力に感謝申し上げます。
今回もとても充実した内容になっておりますので、是非ご一読ください。

三重大学医学部附属病院　リハビリテーション部　清水昭雄